



日本道路建設業協会（道建協、三好武夫会長）は、女性技術者の活躍の場を広げる取り組みを推進する。女性技術者が構

道建協

目標設定

情報化施工で活躍後押し

女性活用策の検討開始

成するワーキンググループ「なでしこエンジニアリングの会」のメンバーの意見を聞きながら、情報化施工を行っている現場での女性技術者の一層の活用方策と目標の検討を今月始める。併せて、新設した労働委員会による技術者の確保・育成策の検討の中でも、女性技術者の活用に関する道建協としての対応をまとめる方針だ。

なでしこエンジニアリングの会は、会員企業に加え、建機、測器、レンタルの各メーカーの女性技術者が構成し、16人ほどが所属している。情報化施工の技術、知識が豊富な技術者が参画。各社で技術営業や現場支援を行ったり、国土交通省関東地方整備局が6月18日に関東技術事務所船舶防災センター（千葉県船橋市）で開いた情報化施工技術の講習会・見学会などで説明役を担ったりしている＝写真。

道建協は、情報化施工を行う現場などで女性技術者の活躍の場をさらに広げられると判断、女性技術者の活用方策やその目標に関する具体的な検討を始めることにした。技術委員会が情報化施工を所管する「技術ワーキンググループ（WG）」＝「なでしこエンジニアリングの会」を生かし、具体策を詰めていく。技術者の活用・育成が業界全体の課題となっていることから、道建協は労働部会などで構成していた環境・安全労働委員会を再編。環境・安全委員会と労働委員会を発足

させ、労働委員会には労働部会、制度部会を設け、それぞれ労働WG、女性活用WGを設置した。労働委員会では、会員の技術者の人数、年齢構成などの実態を調査した上で、技術者の活用・育成方策などを幅広く検討。女性活用WGでは、舗装関連の女性技術者を対象にした議論を行う。舗装工事は、夜間作業が多く、建築工事のような常設の事務所が設置されない現場もある。一方、道建協の会員企業には、情報化施工の技術営業や現場支援のほか、合材工場の品質管理などを行っている女性技術者がいる。新卒者採用で女性技術者の確保を意識する会員企業も増え、今春には複数の女性技術者が入社した企業もある。道建協はこうした現状を踏まえた環境整備を急ぎ、女性技術者が働きがいのある職場づくりを目指す。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊勢 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| ①建設工業 | | |